

学校教育目標	◎すすんでの子 ○健康な子 ○考える子 ○協力する子	【目指す学校像】	子供一人一人の『幸せ(ウェルビーイング)』を具現化する学校+教職員一人一人の『働きたい』を具現化する学校
		【目指す児童・生徒像】	どの共同体でも力を発揮できる子(2030/2040年の日本を生きる子供たちへ) cfエージェンシー(社会を変革する力)の育成
		【目指す教師像】	子供の幸せを念頭に、教育者としての熱意とスキルを併せ持つ教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	主体的な学びの喜びを通して、児童・教師が「光華遊学」の成果を実感する	知的好奇心の向上	・つくり ・児童の視野を広げる工夫 ・対話的な学びの充実	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかった	4	4 90%以上の児童が楽しく学校生活を過ごしている 3 80%以上の児童が楽しく学校生活を過ごしている 2 70%以上の児童が楽しく学校生活を過ごしている 1 60%以上の児童が楽しく学校生活を過ごしている	4	光華遊学の具体化が児童に伝わってきた結果と認識している。	B	B	次年度も教科内に留まらず、学校生活全体で好奇心を高めていきたい。言語化し協働するスキルが課題。
		問題解決型学習の推進	・主体性を引き出す課題設定 ・解決の見通しを重視 ・適切なまとめ方・表現を重視	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかった	4	4 90%以上の児童が授業にすすんで参加している 3 80%以上の児童が授業にすすんで参加している 2 70%以上の児童が授業にすすんで参加している 1 60%以上の児童が授業にすすんで参加している	4	光華遊学の趣旨が教師に浸透し始めた結果と認識している。	A	A	3つの学びのスタイルごとにPBLの重点化が見えてきた。この浸透と具現化を図っていきたい。
		教育DXの推進	・教師自身のスキル向上 ・情報リテラシー教育の推進 ・積極的なICT活用	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかった	3	4 90%以上の児童がタブレットに役に立つ 3 80%以上の児童がタブレットに役に立つ 2 70%以上の児童がタブレットに役に立つ 1 60%以上の児童がタブレットに役に立つ	4	ICT担当者を増やしたこと、研修が即時活用できる内容であったことの結果と認識している。	B	B	まずは教師のDX活用推進を図るため、実働性・即効性ある研修を重ねたい。
豊かな心	多様な見方・考え方を働かせ、自ら楽しさ(ワクワク・ドキドキ)を見い出す心の醸成	多様性を認め合う心の醸成	・聞く力・態度の育成 ・特別支援教育の推進 ・人権感覚の育成	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかった	4	4 90%以上の児童が自分や友達を大切にしている 3 80%以上の児童が自分や友達を大切にしている 2 70%以上の児童が自分や友達を大切にしている 1 60%以上の児童が自分や友達を大切にしている	4	遊びの中での相互承認、特別支援教育の浸透が結果につながっている。	A	A	全校での授業公開の際、全児童が耳を傾けていたことに本項目の成果を感じた。さらに特支教育充実も感じている。
		感性を豊かにする教育の充実	・読書活動の充実 ・個々の感性を重視 ・体験活動の充実	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかった	3	4 90%以上の児童が「本や音楽や園芸、自然が好きです」と回答 3 80%以上の児童が「本や音楽や園芸、自然が好きです」と回答 2 70%以上の児童が「本や音楽や園芸、自然が好きです」と回答 1 60%以上の児童が「本や音楽や園芸、自然が好きです」と回答	4	児童の内面を重視し、音楽とも連携した展覧会がこの結果に一役つなげている。	B	B	感性の育成という視点でも次年度予定の音楽会の充実を図る。特に鑑賞を重視したい。
		最後まであきらめない心(レジリエンス)の醸成	・児童主体の活動保証 ・形成的評価の充実 ・継続的な活動の工夫	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかった	3	4 90%以上の児童が決めたことは最後まで頑張りができる 3 80%以上の児童が決めたことは最後まで頑張りができる 2 70%以上の児童が決めたことは最後まで頑張りができる 1 60%以上の児童が決めたことは最後まで頑張りができる	3	この醸成に共働きが元気に頑張ることが、年度末反省を通し次年度への方向性が定まり始めている。	A	A	この育成の基盤を「自己理解」とする。段階的な自己理解促進がレジリエンスにつながるか検証したい。
健やかな体	自らの健康を保持・増進する生活習慣の定着	体を動かす喜びの実感(「遊び」の重視)	・体育の授業改善 ・元氣アップガイドブック活用 ・元氣アップタイムの推進	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかった	3	4 90%以上の児童が「学校で遊んだり体を動かしている」と回答 3 80%以上の児童が「学校で遊んだり体を動かしている」と回答 2 70%以上の児童が「学校で遊んだり体を動かしている」と回答 1 60%以上の児童が「学校で遊んだり体を動かしている」と回答	3	例年より運動遊びの機会を増やしたが、教師・児童の実感につながっていないのかもしれない。	B	B	次年度も遊びの重視を基盤とする。元氣アップの動画を校内で実施したい。
		生活習慣の改善	・GM60の推進 ・SNSルールの推進 ・食育の推進	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかった	3	4 90%以上の児童が「学校で安全や知識を生かしている」と回答 3 80%以上の児童が「学校で安全や知識を生かしている」と回答 2 70%以上の児童が「学校で安全や知識を生かしている」と回答 1 60%以上の児童が「学校で安全や知識を生かしている」と回答	3	評価に関わらず、どの項目も継続的に重視していく。	B	B	児童の変容が見えにくい。挨拶は基本であり、さらに家庭の協力を仰ぎたい。
		自他の「性・生命」の尊重	・いじめ防止の推進 ・安全(交通・生活・災害)教育の推進 ・SOSの出し方教育推進	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかった	4	4 90%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活している」と回答 3 80%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活している」と回答 2 70%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活している」と回答 1 60%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活している」と回答	4	評価に関わらず、どの項目も継続的に重視していく。	A	A	SOSの出し方教育をはじめ、不登校対策などの基盤とする。
輝く未来	非認知能力の育成	「自己肯定感」の向上	・「まずやってみよう」自負の推奨 ・役に立つ喜びの重視 ・個のよさを伸ばす取組	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかった	4	4 90%以上の児童が「自分にはいいところある」と回答 3 80%以上の児童が「自分にはいいところある」と回答 2 70%以上の児童が「自分にはいいところある」と回答 1 60%以上の児童が「自分にはいいところある」と回答	4	まずやってみよう、という校内の空気感が浸透してきたことが結果につながっている。	A	A	元華班子の元にも自己肯定感があると信じる。教科内だけでなく、学校全体の空気感を高める。
		他者や地域と「つながる」喜びの実感	・外部人材の活用 ・行事への主体的な参加 ・自ら企画する機会の保証	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかった	2	4 90%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答 3 80%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答 2 70%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答 1 60%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答	4	外部人材の活用は学年差が出ているが、評価以上のつながりがあったと認識している。	A	A	地域コーディネータの活用を定着させる1年間としたい。
		自己を見つめる力の醸成	・キャリアアルバムの活用 ・道徳の授業改善 ・学習の自己評価活動	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかった	3	4 90%以上の児童が「自分の考えを大切にしている」と回答 3 80%以上の児童が「自分の考えを大切にしている」と回答 2 70%以上の児童が「自分の考えを大切にしている」と回答 1 60%以上の児童が「自分の考えを大切にしている」と回答	4	採算面でのキャリアアルバム活用は定着してきた。日常的な自己評価活動の充実が課題である。	B	B	自己理解として、これまで以上に重視し、具体化を図る。